

## 12. Methotrexate/5FU Sequential Therapy が著効を示した Borrmann 4型胃癌の1例

(秩父市立病院外科) 富松裕明  
釘宮睦博・中野達也

Methotrexate (MTX)/5FU Sequential Therapy は Bertino らにより提唱された方法で、MTX は胃癌には殆ど感受性を持たないにもかかわらず biochemical modulator として、5-FU の代謝経路を修飾し、5-FU の耐性克服あるいは抗腫瘍効果を増強して作用するものとされています。私達の施設では胃癌の内、手術適応のない、または切除不能の症例や、adjuvant chemotherapy として病期の進んだ切除例のうち、主に未分化癌症例に本療法を施行しています。今回私達は本療法に著効を示した症例を経験したので報告します。症例は63歳男性で腹水をともない、腹壁から明瞭に腫瘤を触知し得た Borrmann 4型胃癌の患者で、治療開始後1週間で腹水はほぼ消失、2週間で腫瘤触知なくなり、barium meal でも胃内腔の拡大を見ました。また CEA も1カ月半で7分の1に減少しました。またこの他の有効例も報告する予定です。

## 14. 炎症性乳癌に対する術前動注化学療法

(大宮中央総合病院外科) 椿 哲郎  
宮之原貴徳・淵上知昭・神戸知充

炎症性乳癌は、全乳癌の1～4%と比較的稀な疾患である。乳房の発赤、腫脹という、特異的な臨床像を呈し、全身的な転移と原発巣の連続性進展が、早期にかつ急激に起こる、極めて予後の悪い疾患である。治療に関しては、従来の根治手術と補助化学療法だけでは、治療成績が著しく悪いことが知られており、術前、術後の化学療法、内分泌療法、手術、放射線療法などを組み合わせた集学的治療が必要とされている。

最近、この集学的治療の一環として、局所動注化学療法が注目されている。今回、我々は、炎症性乳癌の1例を経験した。術前治療として、内胸動脈、および鎖骨下動脈を用いた局所動注化学療法を試みたところ、短期間に、腫瘤の縮小、乳房の発赤、緊満、疼痛の消失など、期待通りの結果を得、拡大根治手術を行うことができた。ここに若干の文献的考察を加えて、自験例を紹介する。

## 15. 十二指腸ソマトスタチノーマの1例

(呉羽総合病院外科) 関由紀夫  
小坂博美・金木昌弘

今回我々は極めて稀な十二指腸原発のソマトスタチノーマを経験したので、若干の文献的考察を加えて報

告する。

症例は69歳の男性。出血性胃潰瘍、高CEA血症にて精査入院、十二指腸下行脚に粘膜下腫瘤を認めた。血管造影検査、低緊張性十二指腸造影等により carcinoid 系腫瘍の診断で臍頭十二指腸切除術を施行した。腫瘍は明らかに十二指腸の粘膜下より固有筋層に存在し、脾実質とは関係なく、腫瘍組織のソマトスタチン抗体による酵素抗体法染色で多数の胞体内ソマトスタチンが証明されたため、十二指腸原発のソマトスタチノーマと診断した。術後化学療法を施行、現在再発の兆候なく経過良好である。

## 16. 当院における胃腸アニサキス症の治療経験

(渡辺胃腸科外科病院) 曾山鋼一  
斎藤 登・田中信一・渡辺金隆

消化管アニサキス症は魚貝類の生食により感染し、胃に限局性肉芽腫あるいは膿瘍、腸には好酸性球性蜂巣炎を形成し、急性腹症として日常診療上しばしば遭遇する疾患である。第二外科より臨海地区にある渡辺胃腸科外科病院への医局員出張が始まった1989年9月より1993年1月までの3年4カ月の間に経験した胃腸アニサキス症について検討した。渡辺病院ではアニサキス症もしくはアニサキス症疑いの症例に対し、全例経験上コンバントリン(ファイザー)5g/日を2日間投与の治療法により臨床症状は消失し良好の成績が得られた。アニサキス症に対する薬物療法が確定していない現在、試みるべき治療法であると考え若干の文献的考察の上報告する。

## 17. 十二指腸潰瘍穿孔例の保存療法経過中に腹腔内膿瘍をきたした1症例

(秩父市立病院外科) 釘宮睦博  
富松裕明・中野達也

従来、絶対的手術適応とされてきた十二指腸潰瘍穿孔例において、最近、保存的治療法で良好な成績を得たという報告例が見られるようになった。しかしながら、その合併症についての報告は少ない。今回我々が経験した症例では、十二指腸潰瘍の穿孔例に対し、その腹部所見および全身状態から保存的治療としたが、経口摂取開始後、右横隔膜下に腹腔内膿瘍の形成を認めた。エコー下に穿刺、持続ドレナージを施行したところ無菌性膿瘍を認め、また、膿瘍腔内の造影では十二指腸球部への造影剤の流出を認めた。膿瘍腔の縮小を確認後ドレーンを抜去、第51病日に独歩退院した。十二指腸潰瘍穿孔例において保存的療法か手術療法かその判断基準を中心に考察を加え、この症例について